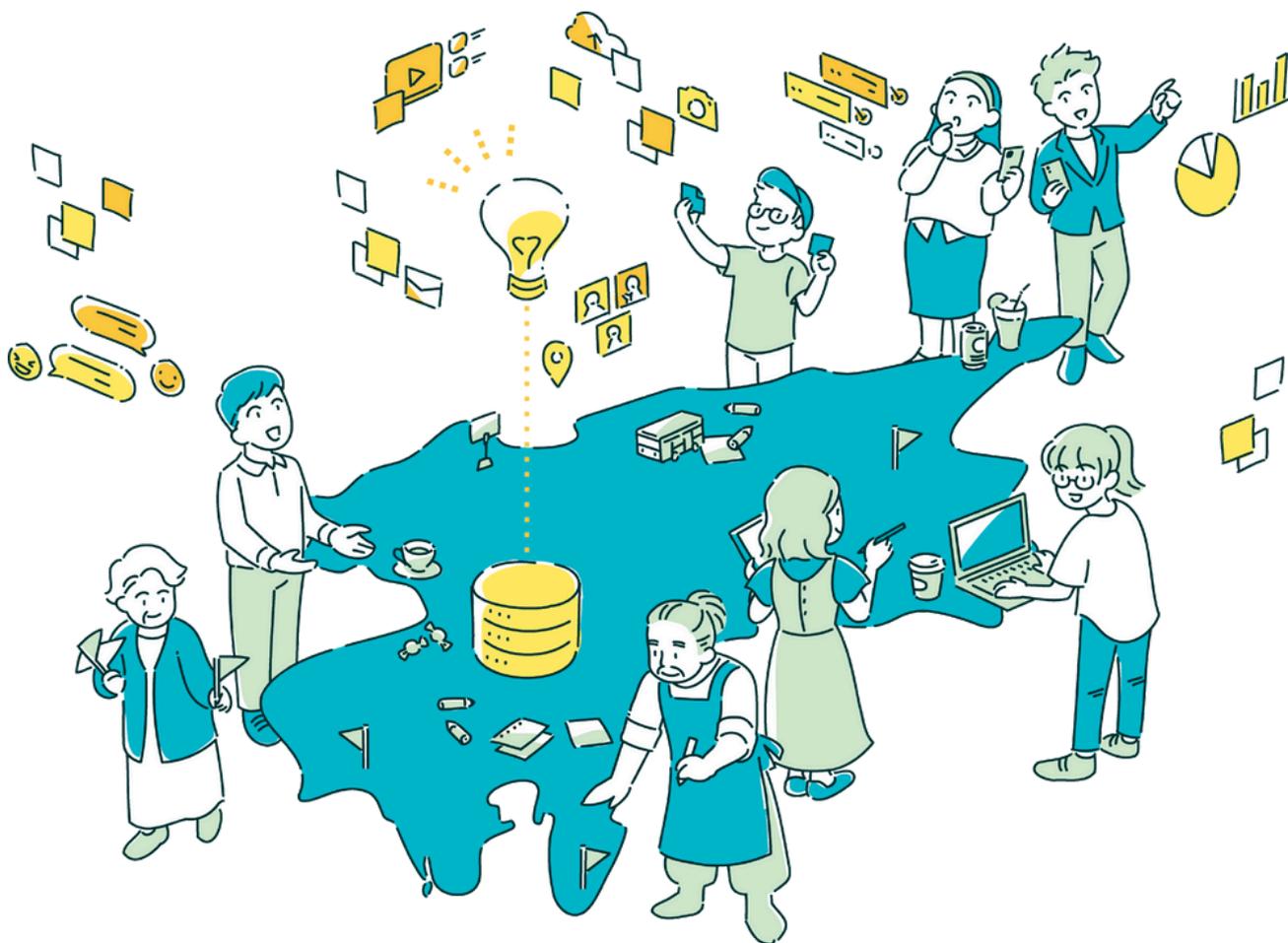




実施報告書

データを活用した地域課題の解決

沖縄市オープンデータ アイデアソン 2024



令和7（2025）年3月

主催：沖縄市 企画部 DX戦略室 DX推進課
企画・運営：アイパブリッシング株式会社

目次

本事業全体の方針	1
広報戦略実績	3
沖縄市オープンデータ アイデアソン	4
アイデアソン事前講座 アンケート結果	13
アイデアソン アンケート結果	16
沖縄市学生向けオープンデータ アイデアソン	23
学生向けアイデアソン アンケート結果	27
沖縄市オープンデータアイデアソン 課題提案数	33
沖縄市オープンデータ/ダッシュボード 満足度と考察	34
沖縄市オープンデータアイデアソン 来年度に向けたフィードバック	36

本事業全体の方針

本業務は、オープンデータの普及および利活用の促進を図ることを目的に市民自らが、沖縄市の地域課題を考え、公開データやビックデータなどを活用した沖縄市の地域課題解決につながるアイデアソンを開催することにより、オープンデータの普及及び利活用を推進するものである。

沖縄市が公開するオープンデータや、ダッシュボードなどを活用して、沖縄市の地域課題解決に繋がるアイデアを考えてもらい、課題解決案として沖縄市へ提出する。

沖縄市にデジタル人材を増やし、 市民と協働してオープンデータを利活用する仕組み作り

一般市民向けアイデアソン

市民が地域課題に関心を持ち自ら地域課題を考え、沖縄市のオープンデータやダッシュボードなどを活用して、データに基づき沖縄市の課題を発見してもらい、その課題を解決する案を市民から提案してもらう。

学生向けアイデアソン

将来の社会を担う学生が早い段階からオープンデータを理解することで、社会全体でのオープンデータへの認知度や利活用の促進が期待されている。これからの沖縄市を担っていく学生が、地域課題に関心を持ち自ら地域課題を考え、沖縄市のオープンデータやダッシュボードなどを活用して、沖縄市の課題をデータに基づき発見してもらい、その課題を解決する案を提案してもらう。

全国的にシビックテック（市民自らがICTを活用して行う地域課題解決活動）やオープンデータの見識が高く、日本初のシビックテックコミュニティである一般社団法人コード・フォー・カナザワの代表理事を務めている。福島氏は市民活動として様々な地域課題解決プロダクトを作ってきただけでなく、オンラインも含めた市民活動研修を全国で依頼され行なっている。



メイン講師：福島 健一郎氏

沖縄市オープンデータ利活用推進事業 にて実施した講座・アイデアソン

沖縄市としてオープンデータを有意義に推進していくために、市民のニーズを吸い上げる仕組みや、市民と協働してオープンデータに取り組む土壌づくりへと繋げるためのアイデアソンを実施しました。アイデアソンを実施するにあたり、オープンデータの基礎知識等を含む事前講座を1回設けその後、アイデアソンを開催した。

一般市民向けアイデアソン



アイデアソン事前講座

～オープンデータの基礎とデータの活用について学ぼう！～

日時：2024年9月7日（土）13:00～15:00

会場：沖縄市ITワークプラザ 参加者：24名（市内：12名、市外：12名）

オープンデータの基礎だけでなく、データの活用の基礎やオープンデータの利活用事例を学ぶことで、オープンデータを活用するとどのような効果が生まれ、自分たちの地域がどのように良くなるのか有用性を知ってもらいました。



オープンデータアイデアソン

～データを使った地域課題に対する解決策を考えよう！～

日時：2024年10月5日（土）13:00～16:30

会場：沖縄市ITワークプラザ 参加者：26名（市内：11名、市外：15名）

沖縄市のオープンデータやダッシュボードなどを活用して、データに基づいた沖縄市の課題を発見してもらい、その課題を解決する案を市民から提案してもらいました。

学生向けアイデアソン



オープンデータ講座、アイデアソン

日時：2025年2月1日（土）13:00～16:00

会場：沖縄市ITワークプラザ 参加者：7名（市内：5名、市外：2名）

学生向けにオープンデータの基礎だけでなく、データ活用の基礎やオープンデータの利活用事例を解説し、地域社会の課題解決にオープンデータがどのように役立つかを具体的な事例を通して学びました。そして、沖縄市のオープンデータやダッシュボードなどを活用して、データに基づいた沖縄市の課題を発見してもらい、その課題を解決する案を提案してもらいました。

広報戦略実績

地域課題に関わる仕事に携わる方やIT技術を持つ方など、さまざまな属性の方に参加してもらえよう、幅広く広報を行った。福祉、教育、文化、就労など地域課題に関わる専門施設のほか、IT技術者が集まるコワーキングスペースやインキュベーション施設にチラシを設置し、情報を提供した。また、Web上では本講座と親和性の高いイベントページに告知を掲載した。

学生向けの広報では、沖縄市内の中学校や高等学校に加え、公務員を目指す学生が多い専門学校や、研究などでデータを扱う機会のある大学にも周知を行った。

一般市民向けアイデアソン

チラシ・ポスター設置・配布箇所（53施設）

【教育機関】琉球大学、沖縄国際大学、沖縄職業能力開発大学校

【福祉施設】地域包括視線センター、沖縄市男女共同参画センター、沖縄市社会福祉センター、沖縄市ファミリーサポートセンター

【文化・観光・教育関連施設】くすぬち平和文化館、シアタードーナツ、沖縄こどもの国、沖縄県立図書館、沖縄市観光物産振興協会、沖縄市文化協会

【産業/起業支援施設・IT】沖縄市ITワークプラザ、県内コワーキングスペース・インキュベーション施設、LagoonKOZA、琉ラボ

【その他】市外公共施設、沖縄市内NPO法人など

プレスリリースの掲載

ツナググ、PRERELE、Press Walker

Web・SNSへの掲載

connpass、こくちーず、ぴらつか暦、アイパブリッシング株式会社のSNS

校内・団体内お知らせ（2団体）

沖縄市商工会議所、沖縄県産業振興公社

学生向けアイデアソン

チラシ・ポスター設置・配布箇所（17施設）

【教育機関】沖縄国際大学、沖縄職業能力開発大学校、沖縄情報経理専門学校、専門学校沖縄中央学園、大庭学園ソーシャルワーク専門学校、沖縄大学、名桜大学、沖縄キリスト教短期大学・学院大学、沖縄県立芸術大学、沖縄県立看護大学、沖縄女子短期大学

【文化・観光・教育関連施設】沖縄市立図書館

【産業/起業支援施設・IT】琉ラボ、沖縄市ITワークプラザ、Lagoon KOZA

広報

ラジオ放送（Radio dub）、琉ラボイベントにて告知、一般向けアイデアソン参加者へお知らせ

Web・SNSへの掲載

connpass、こくちーず、ぴらつか暦、アイパブリッシング株式会社のSNS

校内・団体内お知らせ（5団体）

Lagoon KOZA会員、沖縄市内中学校、沖縄市内高等学校、Hult Prize琉大など

沖縄市オープンデータアイデアソン

事前講座

オープンデータの基礎とデータの活用について学ぼう！

日時：2024年9月7日（土）13:00～15:00

会場：沖縄市ITワークプラザ 会議室大 参加者：24名（市内12名、市外12名）

講座の前半では、データやオープンデータの基礎知識について解説しました。まず、データと情報の違いや、データの重要性を学ぶところから始まり、オープンデータの意義・目的、定義を説明し、その後、利活用側が意識する「二次利用可能なルール」、データ活用や高度な二次利用に必要な「機械判読可能なデータ」について講義を行いました。

官民協働によるオープンデータを活用した国内外の事例を紹介し、行政と市民が「共創」する社会のあり方、そして沖縄県でのオープンデータ取り組み状況に加え、沖縄市が出しているオープンデータを紹介しました。

講座の後半では、様々なオープンデータの公開場所やその種類について紹介しました。具体的には、沖縄市、沖縄県、国が提供しているプラットフォームやカタログサイト、データ分析サイトなど、多様なオープンデータの公開場所を取り上げました。

また、障害福祉サービスに関するデータ、歩行者移動支援のデータ、海外安全情報のデータなど、幅広い種類のデータを具体的に紹介しました。その他、文化・芸術に関するオープンデータを活用した事例についても触れ、様々な種類のデータが公開されることで、その利活用の幅が広がることを解説しました。



沖縄市オープンデータアイデアソン

アイデアソン

データを使った地域課題に対する解決策を考えよう！

日時：2024年10月5日（土）13:00～16:30

会場：沖縄市ITワークプラザ 会議室大 参加者：26名（市内：11名、市外：15名）

アイデアソンとは、「アイデア」と「マラソン」を掛け合わせた造語です。テーマを決めてアイデアを出し合い、それらをまとめて形にしていくワークショップになります。

沖縄市のオープンデータとダッシュボードなどを活用して、沖縄市の課題をデータに基づいて発見してもらい、その課題を解決する案を提案してもらいました。

「沖縄市オープンデータアイデアソン」の進め方は以下の通りです。

- ①テーマに関連する課題を話し合い仮説を設定する
- ②仮説に対するデータ収集する
- ③データに基づいた課題を設定する
- ④その課題を解決するためのアイデアを考える

参加者の取り組みたいテーマを聴き、6つのチームに分かれ、事務局にて用意した模造紙の真ん中にテーマを記入し、それにまつわる課題を付箋紙に書いて貼り付け、似ているものはグループ化していきました。その時、気をつけてほしいことは、「声に出して読んで貼る（聞いてあげる）」、「ほめる（良いものはどんどんほめる）」、「活用する（それに乗っかって書く）」であると参加者に伝えました。次は、たくさん出した課題の中から1つチームで取り組む課題を決めて、今後はそれを仮説として考え、仮説が正しいか検証するためにデータを収集しました。データの収集は沖縄市オープンデータ/ダッシュボードなどを活用しました。集めたデータを元に、なぜそのような課題があるのか、他の課題と関連していないか、と突き詰めて考え、発見したことがあればさらに付箋を貼っていきます。そうすることで、データを基にして本質的な課題に近づいていきます。

本質的な課題を見つけたら、アイデア出しをしていきます。課題が明確になっているので、課題解決につながる具体的なアイデアを考えることができ、その内容をアイデアソンシートに落とし込みます。

アイデアソン
シート ▶

取り組むべき真の課題()		
最初の課題	データ収集をして見えてきたこと	参照したデータ

▼

課題解決のためのアイデア()	
Why: どうしてこれが必要なのか	What: どういうアイデアか
Who: 誰が実行するのか	Whom: ターゲットは誰か

サポート内容とその評価

参加者がアイデアソンをスムーズに進められるよう、以下の役割とサポート内容に基づき支援を行いました。一般向けでは、各チームへのサポート内容が共通していたため、全体を通して評価を実施しました。一方、学生向けでは、中学生から大学生まで幅広い年代の参加があったため、年代に応じてサポート内容を調整し、各チームごとに評価を行いました。

役割とサポート内容

- アイデアソン全体のファシリテーション（1名）・・・アイデアソン全体の進行
- 各チームのサポート（3名）・・・全体のファシリテーションに合わせた、各チームごとのサポート

サポートの詳細

アイデアソンでは、参加者がデータを基に課題を考えることができるよう、様々なサポートを行いました。サポートは、アイデアソン全体の進行に合わせた各チームへの支援、課題の深掘り、データ収集の補助などを中心に行いました。

具体的には、以下のようなサポートを行いました。

- 時間内にデータを基に考えた課題の解決策をまとめられるよう各チームごとに声掛けや進捗の確認を行いました。
- 課題の絞り込みが適切に行われているかを確認し、課題を明確にする前にアイデア出しに進まないよう注意を促しました。
- 目的に合致するデータが見つからない場合には、周辺データを活用する意識を持たせるようアドバイスをしました。
- 必要なデータを探すには技術が必要なため、その方法についてアドバイスをし、場合によっては参加者とともデータ収集を進めました。

サポートの評価

これらのサポートの結果、参加者はさまざまなデータを組み合わせて課題を深掘りし、根拠のある解決案を考えることができました。思いつきのアイデアではなく、データを基に考えた根拠のある解決案として、発表を行うことができました。必要なデータが不足している場合でも、視点を変えたり、複数のデータを組み合わせたりすることで、新たな視点から課題を検討できたと思われまます。

サポートの改善点

各チームの進捗に合わせたことにより、イベント時間が想定よりも長くなってしまったため、今後の改善点として、全体のファシリテーションだけでなく、各グループの進捗に応じてワークの内容や所要時間について適宜説明を行う必要があると考えられます。また、データを用いた根拠の立て方や、異なるデータを組み合わせて推測する手法について、どのグループでも実践できるよう工夫が求められます。そのため、講義の中で事前に説明を行うか、各チームへの個別サポートをより強化することが望ましいと考えられます。

受講生の発表内容

取り組んだテーマ「子育て世帯が暮らしやすい」

真の課題：児童館が足りない

最初の課題

- 子供達が放課後安全に遊ぶ場所が少ない
- 小学校の近くに児童館がない。

データを収集して見えてきたこと

- 児童館が4つしかなく、0～14歳人口の多い地域に、児童館がない地域がある。浦添市は、沖縄市よりやや人口が少ないが、児童館は11箇所ある。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市オープンデータ「こどもの居場所一覧」
 - 沖縄市オープンデータ「市立小学校・中学校一覧」
 - 沖縄市オープンデータ「放課後児童クラブ・児童館一覧」
- その他
 - 国統計局人口データ（浦添市）

アイデア：桃原の地域に楽しい児童館を！

Why：

- 子ども達が安心して遊べて居場所が少ない。
- 0から14歳人口が多い地域である桃原周辺に、児童館がないため。

Who：

- 沖縄市

What：

- 新しい児童館を建てよう

Whom：

- 地域の子ども達



取り組んだテーマ「沖縄市のまちの変化」

真の課題：沖縄市の産業の緩やかな停滞

最初の課題

- スタートアップ企業が多い。

データを収集して見えてきたこと

- 人数の少ない事業所は減少。
- 通勤の流出が多い。
- 中小企業はH10～R3で減っている。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市オープンデータ「沖縄市統計書開設時期別事業所数平成28年」
 - 沖縄市オープンデータ「人口」
 - 沖縄市オープンデータ「通勤通学による流入出」
 - 沖縄市オープンデータカタログサイト「街区別人口データ」
 - 沖縄市HP「令和4年度版沖縄市統計書の「4. 事業所および商工業」
- その他
 - 沖縄県オープンデータ「新規食品営業許可一覧」
 - 沖縄県オープンデータ「食品営業許可・届出全一覧」
 - 沖縄県オープンデータ「新規把握事業所数」
 - おきなわ観光地域カルテ「沖縄市来訪者数」

アイデア：新規事業をドライブする

Why：

- チャレンジできる働く場が必要。
- 街としての新陳代謝。

Who：

- 沖縄市、市民、商工会

What：

- Meet-upイベントを増やす。
- 沖縄市限定のクラウドファンディングを立ち上げる。
- 多国籍のビジネス交流プログラム。

Whom：

- 新しいアイデアや野望がある人
- 外国の方



取り組んだテーマ「医療福祉」

真の課題：病院数が全国よりも少ない

最初の課題

- 病院数が少ない

データを収集して見えてきたこと

- 八重島地区、池原地区の病院数が全国に比べると少なく、内科と外科が特に少ない。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市オープンデータ「人口」
 - 沖縄市オープンデータ「医療施設」
- その他
 - JMAP「地域医療情報システム」

アイデア：病院の待ち時間が長く、病院に行きづらい人のために、予約システムを整備する

Why：

- 待ち時間が長い
- 病院にいける人が少ない

Who：

- 沖縄市、民間（スーパー）、コールセンター

What：

- 交通便をよくする
- コミュニティバスの路線再考
- スーパーと提携したアクセス
- 病院受付コールセンター

Whom：

- 高齢者、医療が必要な人、交通弱者



取り組んだテーマ「観光」

真の課題：沖縄アリーナ」や「沖縄こどもの国」の設備力UPと集客に対して、沖縄市の潤いがみられない。

最初の課題

- 沖縄市の観光業にお金が落ちているのか？

データを収集して見えてきたこと

- データで可視化がされていないから、その施設の周りにお金が落ちているのか見える化されていない。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市HP「沖縄市の観光への投資額」
 - 沖縄市HP「沖縄市内の観光御施設年間来客数」
 - 沖縄市HP「多言語対応」
 - 沖縄市HP「沖縄市のスポーツ施設」
- その他
 - 沖縄県「宿泊施設実態調査」
 - 楽天トラベル
 - 一般社団法人沖縄市観光物産振興協会「沖縄市観光物産振興協会会員」
 - KOZA WEB「観光スポット」「イベント数」「バリアフリーマップ」
 - Runtrip「沖縄市のランニングコース」

アイデア：独自観光ルートのシェア（沖縄市への滞在をのばして、お金を落とす）

Why :

- オリジナルの観光ルート
- 沖縄市の観光、ホテル、飲食への消費の見える化

Who :

- コザWeb（地元の人、観光客が作り上げるSNS）

What :

- 観光スポット
- 撮影スポット、飲食店のシェア機能、Google mapでのルート表示
- イベント表示
- 集客状況の見える化

Whom :

- 観光客、地元客



取り組んだテーマ「商店街」

真の課題：商店街の活性化

最初の課題

- 高齢化

データを収集して見えてきたこと

- 商店街の高齢化が進んでいる

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市HP「沖縄市中心市街地活性化基本計画」
 - オープンデータダッシュボード「人口」
- その他
 - なし

アイデア名称：若い人が過ごしやすい空間をつくる

Why：

- 若者を呼びたいから（Z世代）

Who：

- ①：商店街全店舗で実施する。（通り会、観光協会がリーダーシップ）
- ②～③：大学、市役所、官公庁、民間企業

What：

- ①各店舗の前に座れるスペースを作る。
- ②大学のゼミテーマにしてみよう。
- ③3D都市モデルでのアイデアコンテスト
- ④学びをITのまちとしてPR

Whom：

- 若者（Z世代）



取り組んだテーマ「空き家」

真の課題：使える空き家と使えない空き家がある

(※住めるが家主の都合で空き家状態になっているものが「使える空き家」、住める状態にないものが「使えない空き家」)

最初の課題

- 解体費用に困っている
- 相続問題

データを収集して見えてきたこと

- 意外と困っていない
- 有効活用している割合が高い
- 解体補助金は1ヶ月で使い切っている。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市HP「空き家バンク」
 - 沖縄市HP「沖縄市空家等除却費補助金」
- その他
 - 厚生労働省「空き家等の現状について」
 - e-stat「住宅・土地統計調査 / 令和5年住宅・土地統計調査 / 住宅及び世帯に関する基本集計 全国・都道府県・市区町村」

アイデア：使える空き家は有効活用し、使えない空き家は解体する。

Why :

- 周りの家が困る。土地がもったいない。
- 空き家の理由がいろいろある。

Who :

- 行政

What :

- 補助金を増やすことで、解体を希望する人の空き家の解体が進み、跡地の有効活用につながる。

Whom :

- 壊さないといけないけど、お金などの理由で空き家を壊せない人
- 家を遊ばせている人



一般市民向けアイデアソン事前講座 アンケート結果

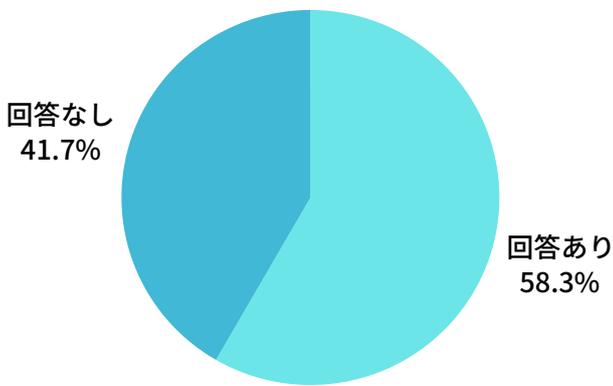
■ アンケート回収率

参加者：24名（市内12名、市外12名）

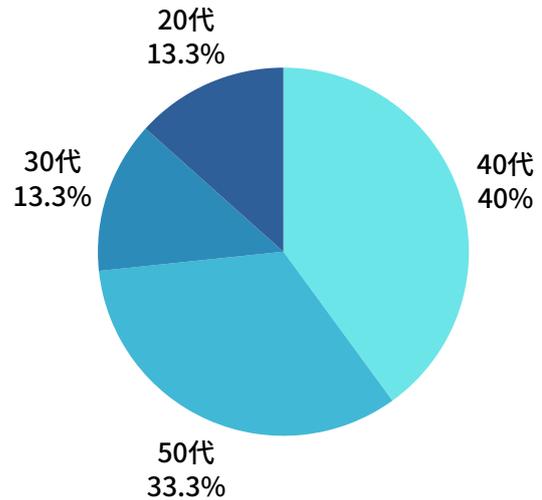
回答者：14名

回収率：58.3%

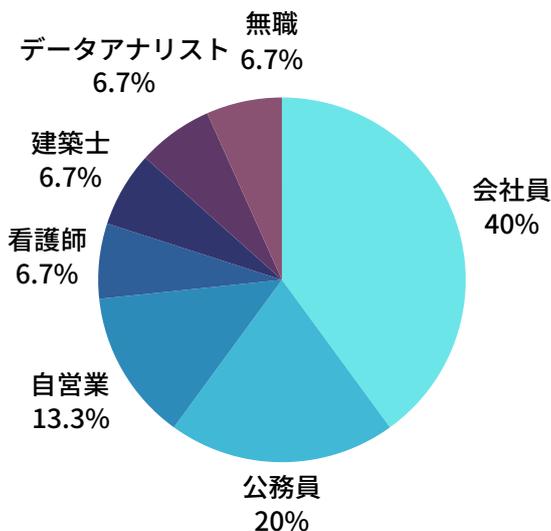
回収方法：フォーム、紙



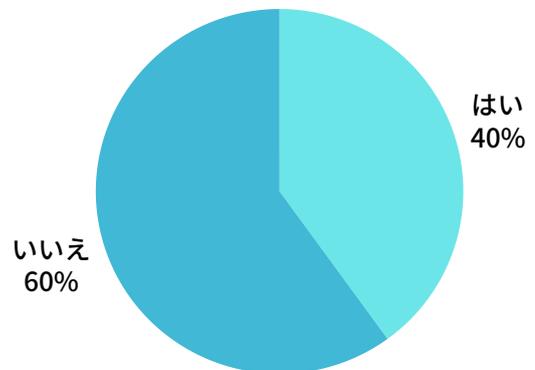
① あなたの年代を教えてください。



② ご職業を教えてください。

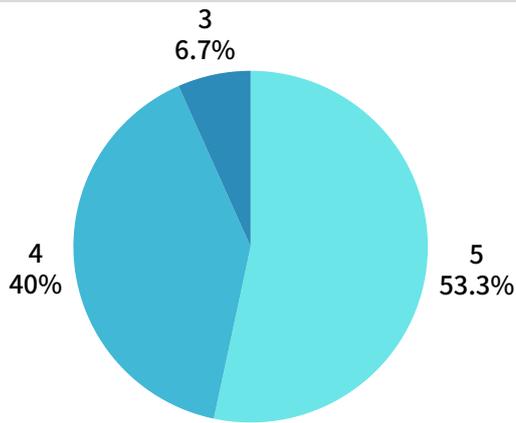


③ 沖縄市のオープンデータ/ダッシュボードを知っていましたか。



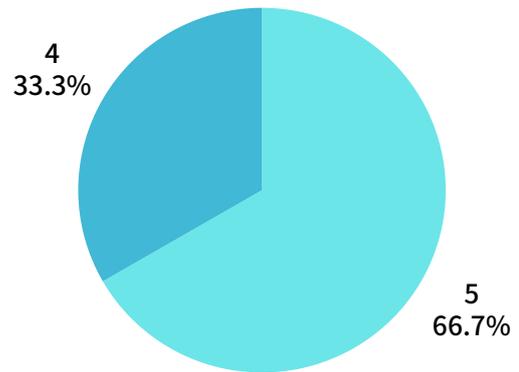
4 講師の話し方はわかりやすかったですか。

わかりやすかった 5 4 3 2 1 分かりづらかった



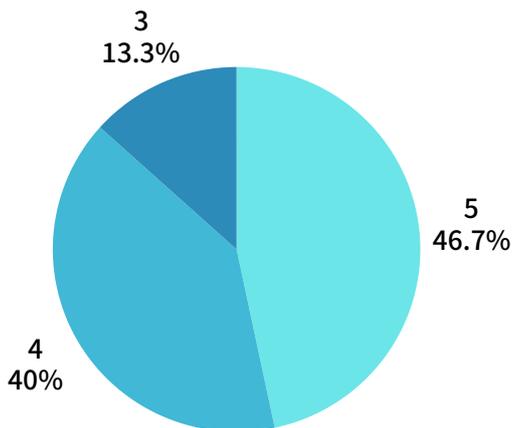
5 講座の進行は適切でしたか。

適切 5 4 3 2 1 不適切



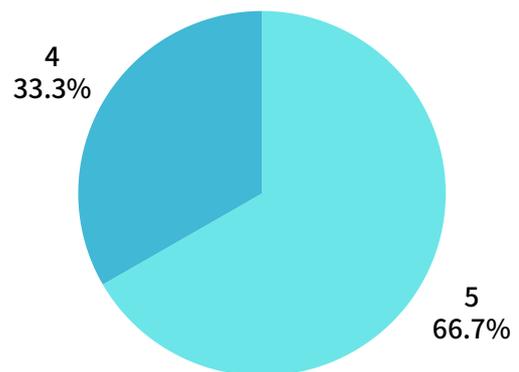
6 講座で提供された資料が、学習をサポートする上でどの程度効果的でしたか。

効果的 5 4 3 2 1 効果的でない

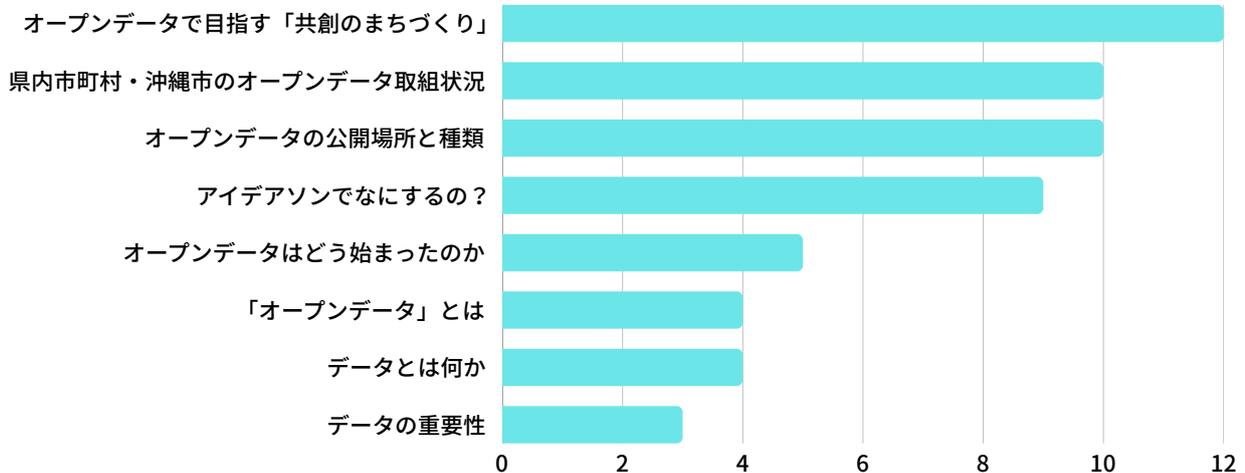


7 事前講座の満足度を教えてください。

満足 5 4 3 2 1 不満

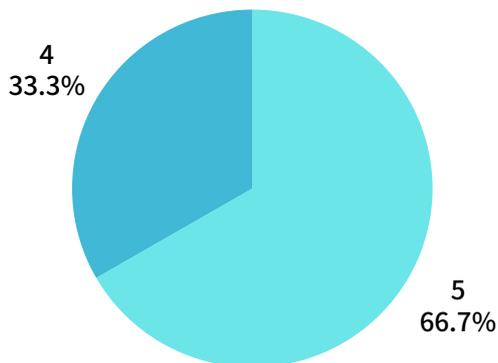


8 印象に残った講座内容を教えてください。



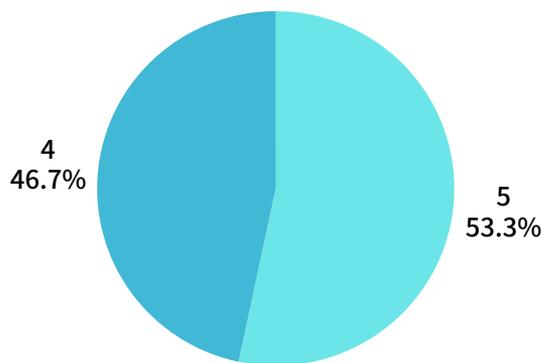
9 講座の内容は理解できましたか。

理解できた 5 4 3 2 1 理解できなかった



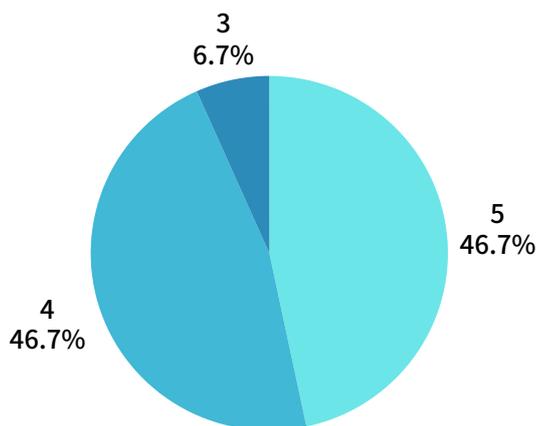
10 オープンデータやデータについて理解できましたか。

理解できた 5 4 3 2 1 理解できなかった



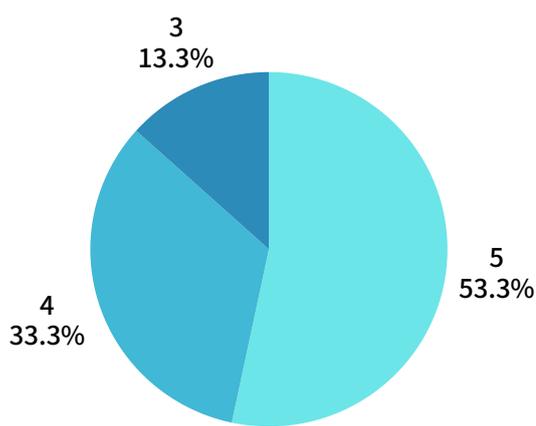
11 オープンデータやデータの紹介数の満足度を教えてください。

満足 5 4 3 2 1 不満

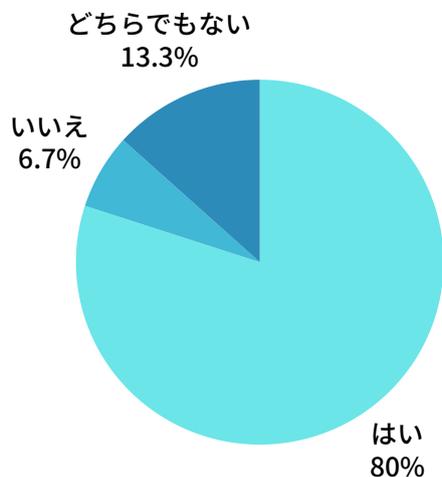


12 オープンデータやデータの利活用事例の内容の満足度を教えてください。

満足 5 4 3 2 1 不満

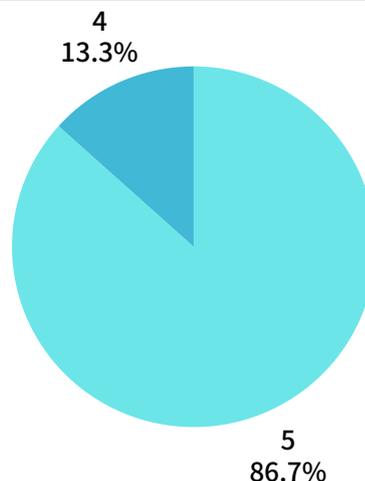


13 事前講座を受ける前と比べて、オープンデータやデータに対する意識が変わりましたか。



14 データを活用して課題発見を行いたいと感じましたか。

感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



一般市民向けアイデアソン アンケート結果

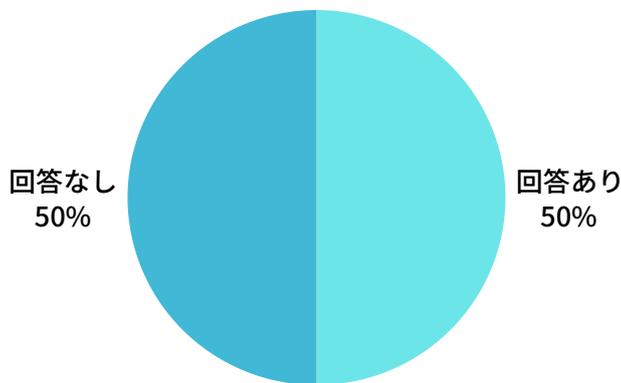
アンケート回収率

参加者：26名（市内11名、市外15名）

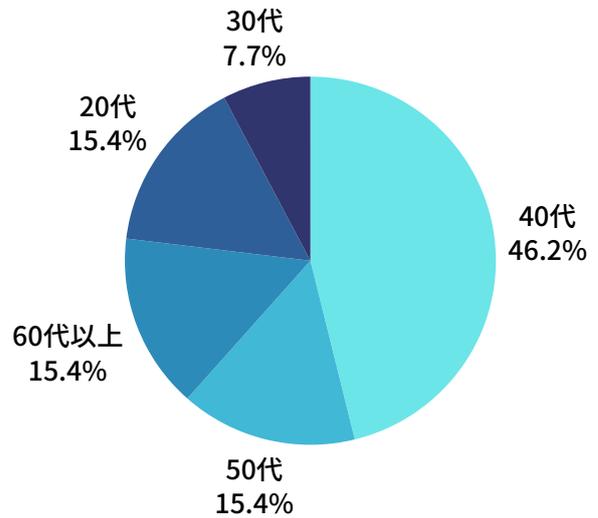
回答者：13名

回収率：50.0%

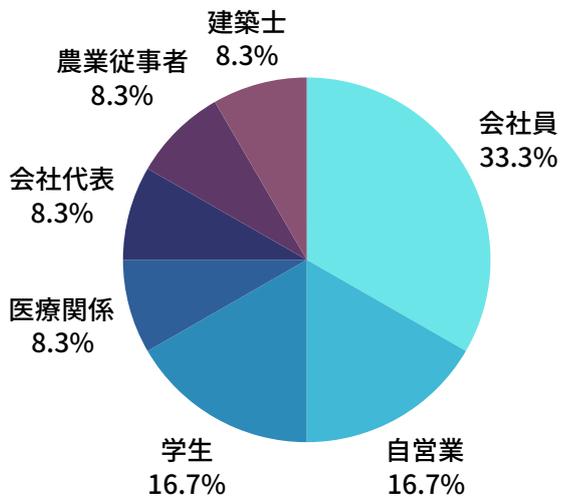
回収方法：フォーム、紙



① あなたの年代を教えてください。

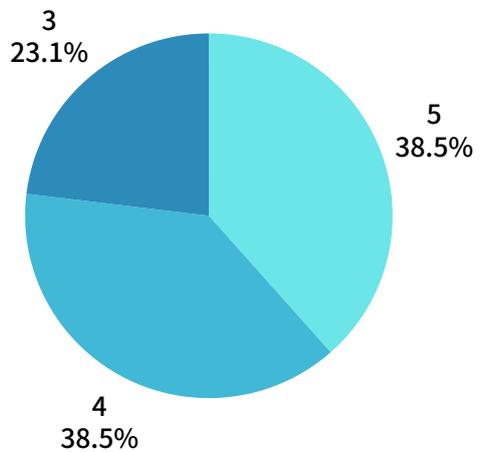


② ご職業を教えてください。



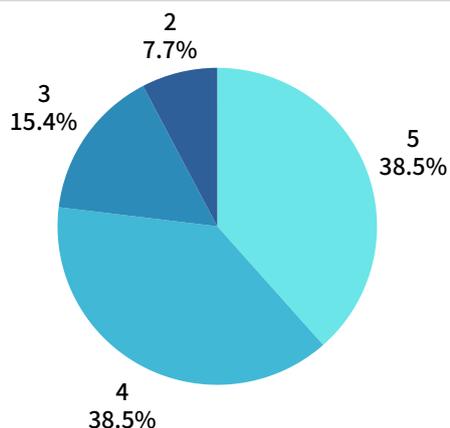
③ アイデアソンの満足度を教えてください。

満足 5 4 3 2 1 不満



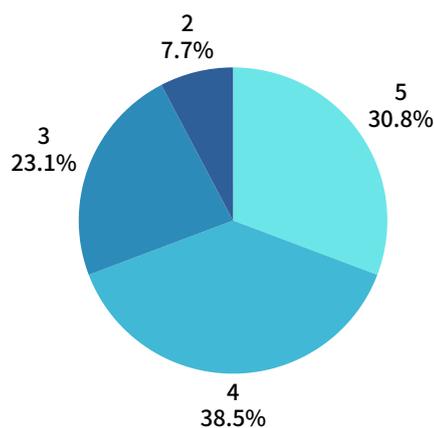
④ アイデアソンに参加する前と比べて、データ活用に対する意識が変わりましたか。

変わった 5 4 3 2 1 変わらなかった



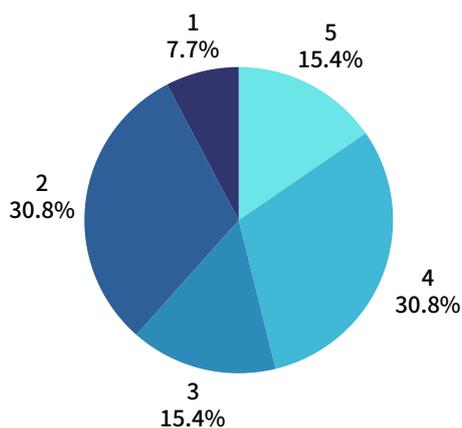
⑤ ダッシュボードの満足度を教えてください。

満足 5 4 3 2 1 不満



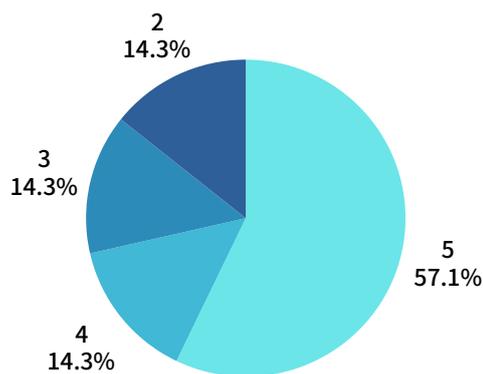
⑥ アイデアソンでダッシュボードを活用できましたか。

できた 5 4 3 2 1 できなかった

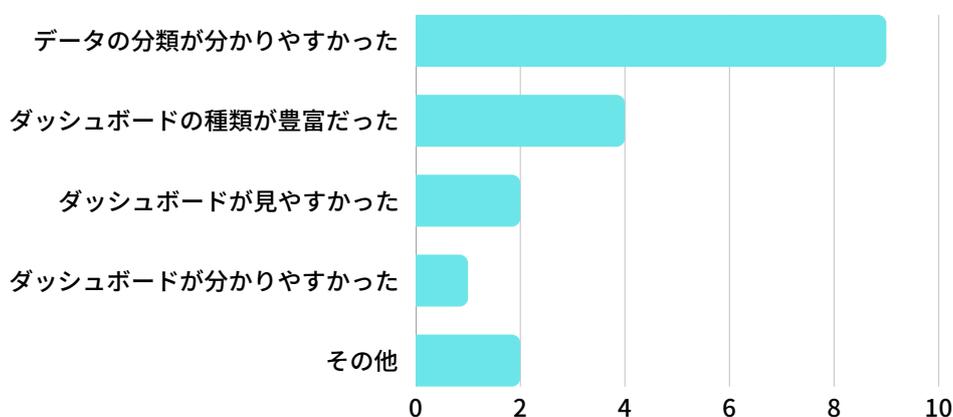


⑦ データを活用して課題を発見し解決することが重要であると感じましたか。

感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



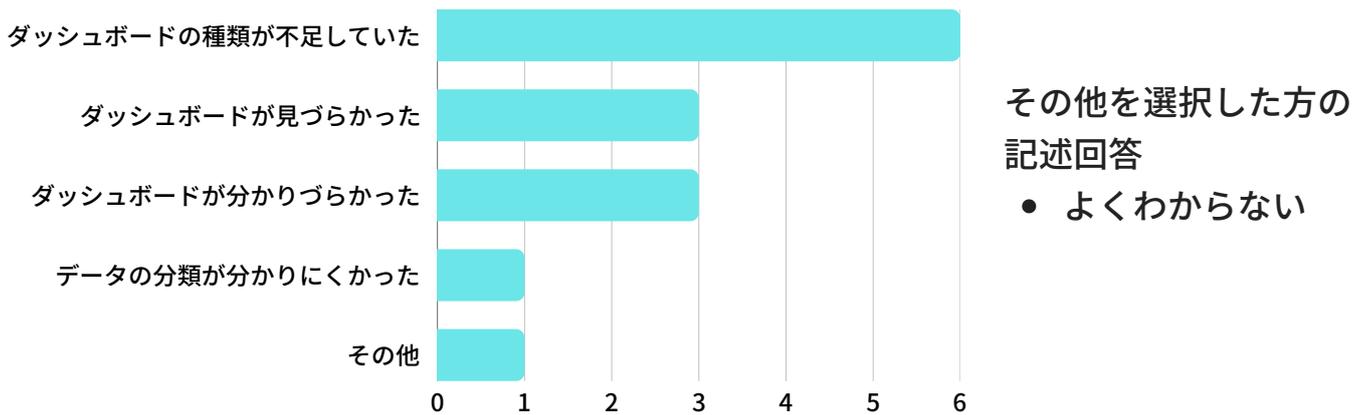
⑧ ダッシュボードで良かった点を教えてください。



その他を選択した方の記述回答

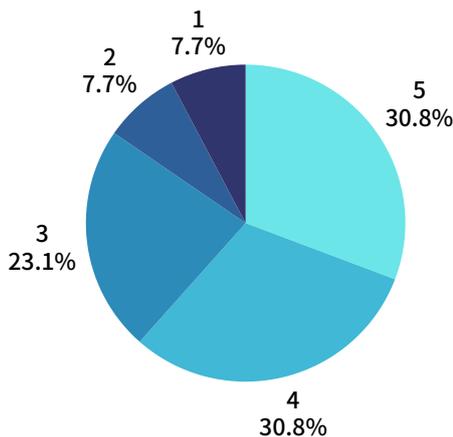
- 使い方がわからなかった
- よくわからない

9 ダッシュボードで足りない点を教えてください。



10 ダッシュボードを仕事や日常生活、活動で活かせそうと感じましたか。

感じた 5 4 3 2 1 感じなかった

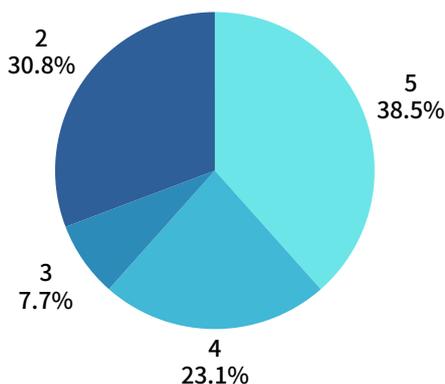


11 具体的にどんな場面で活用されますか。

- 地域課題について協議する場合に、先入観を取り払うために、また参考資料として、データから分析移動支援の必要性について 免許返納した後、障害者、ヤングケアラーなど、必要としている人数、頻度、どの地域で必要性が高いかなど。して読み取れること、裏付け作業などにも活用出来ると思います。(「5」と回答)
- 市役所の取組状況。身近な課題解決。(「5」と回答)
- 方針決定の際の参考情報としての活用(「4」と回答)
- 仕事上、現状分析の基礎データとして(「4」と回答)
- 自治体の案件を受けることやローカルな事業所との関わりの中(「4」と回答)
- 企業活動(「4」と回答)

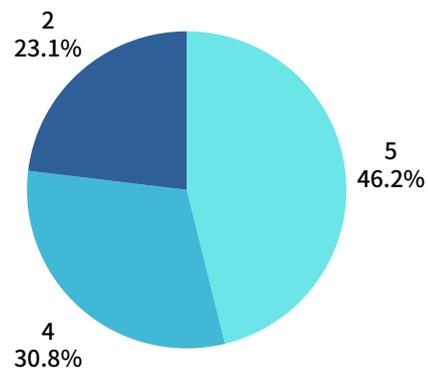
12 ダッシュボードから地域課題を発見できると感じましたか。

感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



13 地域の課題を考える時、ダッシュボードを用いて情報を収集したいと感じましたか。

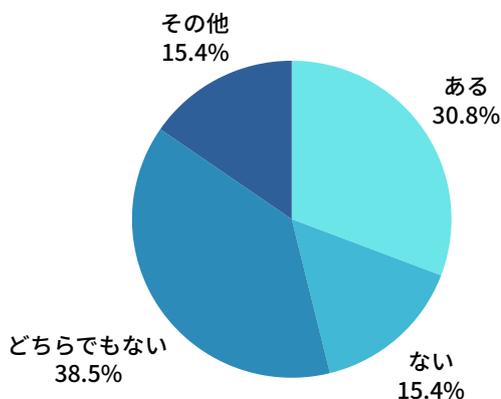
感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



14 ダッシュボードで情報収集を行いたいと感じた点はどんなところですか。

- 手間が省けるから。
- マクロ的視点から論旨を組み立てる際に一定程度の客観性・論理性を担保できる
ところ。使いやすさ。過去と現状を把握するための情報収集として活用しやすい
が、課題認識には別視点が必要。
- その場所のデータはその場所にある。
- 正確さ

15 今後活用する場合、必要なデータはありますか。



その他を選択した方の記述回答

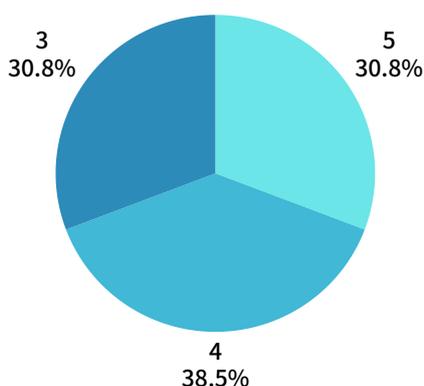
- まだ全部のデータを見ていない。
- わからない。全体を把握していないので。

16 今後活用する場合、必要なデータを具体的に教えてください。

- 移動支援の必要性について 免許返納した後、
障害者、ヤングケアラーなど、必要としている
人数、頻度、どの地域で必要性が高いかなど。
- 地方を盛り上げるために必要な人口、産業、観
光などの生活に密着するデータ。
- 人口分布など

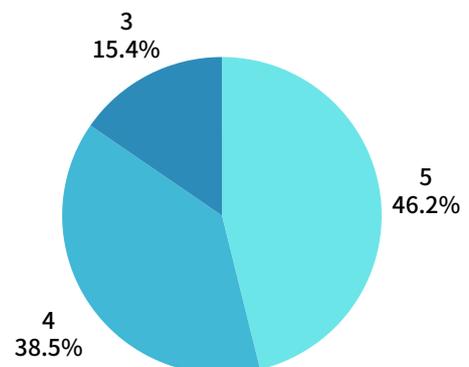
17 データから課題を発見する方法を理解できましたか。

理解
できた 5 1 理解できな
かった



18 データを活用して課題発見を行いたいと感じましたか。

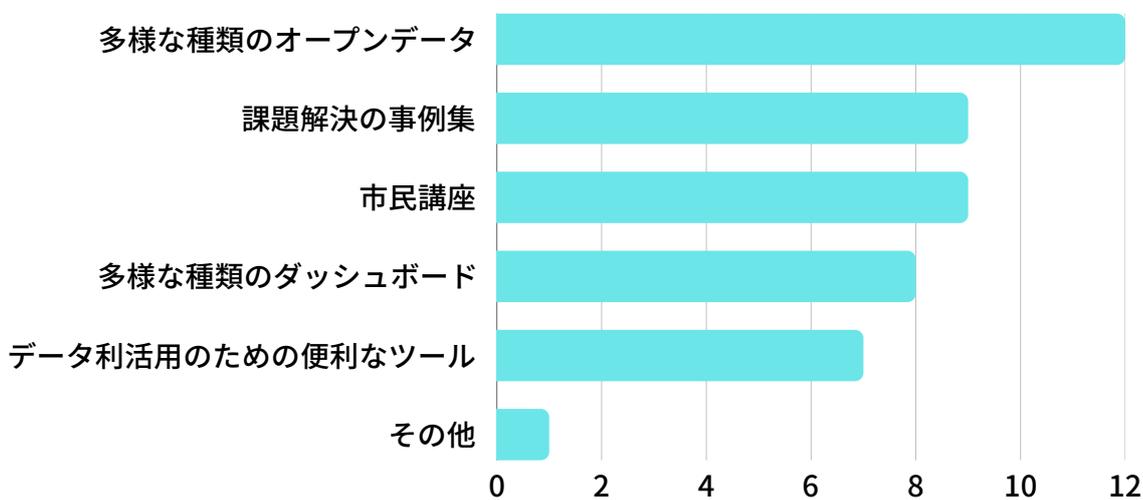
感じた 5 1 感じな
かった



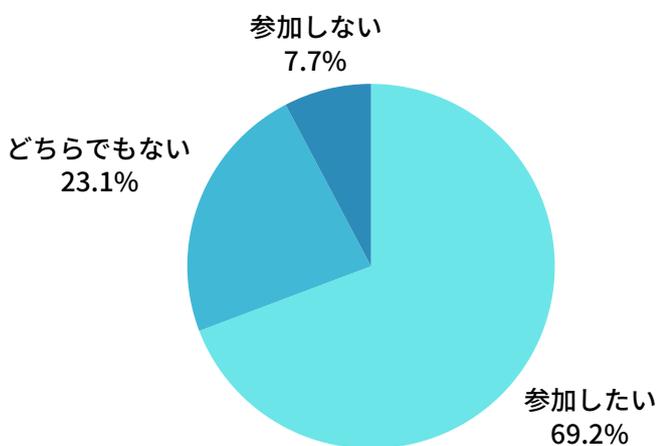
19 今回取り組んだ課題以外で、データを活用して考えたい課題を具体的に教えてください。

- 移動支援、みよりのない方の居住サポート。
- 小売りや飲食などでデータを活用して売り上げアップや創出など。
- こどもの近視が防げる。白内障、緑内障が簡単に治る。データで証明したい。
- 売上向上に活用したい。
- 農業関係
- 医療・介護インフラ、公的住居、マイノリティ
- 中小企業でのデータ活用
- 観光経済

19 今後、データを活用した課題解決を広めるためには何が必要になると思いますか。



20 来年度、オープンデータに関するセミナーやイベント等があれば参加したいですか。



21 感想・質問、その他気づいたことをお書きください。

- 今回アイデアソンに初めて参加しましたが、今までと違う視点で地域課題への取り組みも出来そうだなと感じました。
- 学生たちにもフィードバックや授業に取り入れたいと感じています。何か学生向けに取り入れた事例やカリキュラムなどあれば、御教授願いたいです。
- セミナーやイベントでできたアイデアや計画が実際に実行された例はありますか？
- 課題解決に向けて多様なデータは必須であり、そのためにアクセスしやすく利活用しやすいダッシュボードは大切と感じた。一方、課題認識・課題設定には別の軸が必要であり、むしろデータの趨勢に流されない多様な視点、少数の視点をもつことやリテラシーを高めること、議論をすることの重要性が浮き彫りになったと感じた。行政が主導するものではないとも感じた。
- 社外かつ、沖縄県内の方々とデータ利活用についてディスカッションをすることが出来て良かった。

アンケート結果から見えてきたこと

本講座は、職種も年齢も幅広い方々にご参加いただきました。「質問3:沖縄市のオープンデータ/ダッシュボードを知っていましたか。」より、参加者の約6割が沖縄市のオープンデータやダッシュボードを「知らない」と回答したため、今後も認知度向上の取り組みが必要だと考えられます。

講座の満足度について「質問7:事前講座の満足度を教えてください。」では約9割、「質問3:アイデアソンの満足度を教えてください。」では約7割の参加者が満足と回答していました。講義は基本的に受け身なので一定の質を保ちやすいが、アイデアソンは複数のチームメンバーとの共同作業になるので、満足度に差が出たと考えられます。事前に想定し、各チームへ適宜サポートを行ったものの、事前講座と比べて満足度が低くなってしまった。そのため、参加者がつまずく可能性のあるワーク内容には、全体での解説と細やかなサポートがより必要だと考えられます。

「質問8:印象に残った講座内容を教えてください。」の結果から、事前講座にて特に印象に残った内容として『オープンデータで目指す「共創のまちづくり」』が多く挙げられました。強みが異なるプレイヤー同士が協働する上で、オープンデータの公開が進むことは、とても重要だと認識する機会になったと考えられます。

今後も講座を継続し、沖縄市でオープンデータの公開が進むことで、市民・企業・行政が共創し、まちづくりを進める未来が実現できることを、伝えられることが期待されます。

「質問13:事前講座を受ける前と比べて、オープンデータやデータに対する意識が変わりましたか。」では8割、「質問4:アイデアソンに参加する前と比べて、データ活用に対する意識が変わりましたか。」では7割の参加者が変わったと回答しており、本講座を通じてオープンデータの活用の重要性を伝えることができたと考えられます。

また、「質問19:今後、データを活用した課題解決を広めるためには何が必要になると思いますか。」では、「多様な種類のオープンデータ」が必要と回答しており、「質問13:地域の課題を考える時、ダッシュボードを用いて情報を収集したいと感じましたか。」では、7割以上の参加者が「感じた」と回答していました。一方で、「質問9:ダッシュボードで足りない点を教えてください。」では、多くの参加者がダッシュボードの種類が足りていないことを指摘しているため、今後も多様なデータを追加していき、それを活用する方法を学ぶ市民講座を開催することで、利活用の促進が期待されます。

学生向けオープンデータアイデアソン

オープンデータ講座、アイデアソン

日時：2025年2月1日（土）13:00～16:00

会場：沖縄市ITワークプラザ 会議室大 参加者：参加者：7名（市内：5名、市外2名）

オープンデータ講座

学生向けアイデアソンには、中学生から大学生まで幅広い学生区分の参加者が集まりました。まずデータの基礎や、その活用がなぜ重要なのかを解説しました。続いて、オープンデータの基礎知識や沖縄市のオープンデータの紹介、県外での活用事例などを取り上げ、アイデアソンに向けた講座を実施しました。



アイデアソン

講座の後は、大学生・高専、高校生、中学生と分かれて、模造紙へ学生の視点で身の回りで感じる課題を付箋に書いて貼り付け、その中から取り組む課題を決めました。決めた課題は本当に課題なのか、をデータを基にして考え、その課題を解決するアイデアまで考え、発表を行いました。



▼アイデアソンシート

取り組むべき真の課題()		
最初の課題	データ収集をして見えてきたこと	参照したデータ
▼		
課題解決のためのアイデア()		
Why: どうしてこれが必要なのか	What: どういうアイデアか	
Who: 誰が実行するのか	Whom: ターゲットは誰か	

受講生の発表内容

ここでは、発表内容と合わせて、学生へのサポート内容とその評価を記載します。アイデアソンのサポートは、それぞれの学生区分に合わせて各チームにサポートメンバーが参加し、一緒にデータを基に課題を深掘りし、その課題を解決するアイデアを考えました。具体的なサポートは、アイデアソン全体の進行に合わせた各チームへの支援、課題を深掘り、データ収集の補助などを中心に行い、課題が明確になる前にアイデア出しに進まないよう注意しました。

取り組んだテーマ「中央市街の高齢化」

大学生チーム

真の課題：産業の衰退、景観の悪化

最初の課題

- 中央市街の高齢化

データを収集して見えてきたこと

- 胡屋、中の町などは高齢化しているが、知花、高原は若者が増えていた。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市ダッシュボード「年齢階級別人口」
 - 沖縄市ダッシュボード「スポーツ施設一覧」
- その他
 - 全国大学数のデータ

アイデア：中央市街にスポーツ大学、その周りにスポーツ系の企業

Why :

- スポーツ施設が高齢化した地域にあり、利用されていない
- 若者の流出

Who :

- 沖縄市

What :

- 中央市街にスポーツ大学を建て、その周りにスポーツ系企業
- その企業で学生がインターンなどしやすくなり、就職する人が増える。
- 若者も増える&スポーツ施設利用者も増加

Whom :

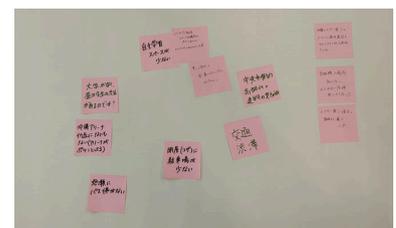
- 学生、企業

サポートとその評価

サポートの視点

- 学生の発言を優先する形でサポートを実施

サポートの結果、学生の積極的な参加を促し、データをもとに課題を考えるプロセスを体験できたと考えられます。一方で、前半は進め方に戸惑う様子も見られたため、最初に流れを示し、取り組みやすい環境を整える必要があります。また、課題を考える場面でアイデアを先に出す傾向があったため、適宜修正を行う工夫が求められます。



取り組んだテーマ「大型商業施設が少ない」

高校生チーム

真の課題：産業の衰退、景観の悪化

最初の課題

- 大型商業施設が少ない

データを収集して見えてきたこと

- 沖縄市は、大型商業施設が1店舗だけ。うるま市、浦添市と比較すると飲食店や小さなスーパーが多く、種類も多い。一年間で新しく営業を開始した飲食店が多い。決められている土地利用の区分が、住宅>工業>商業、となっており、住宅が多い。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市ダッシュボード「土地利用状況」
- その他
 - 沖縄県オープンデータ「食品営業許可一覧」
 - ホームメイトの市場調査データ
 - Timesの駐車場検索サービス

アイデア：まちつなぎプロジェクト

Why：

- 周辺に大型商業施設があるのに、市内に商業施設を建てると、お客の取り合いになってしまうから。

Who：

- バス会社、もしくは沖縄市だけでなく周辺自治体が協力（他自治体循環バス）

What：

- 平日の日中の時間帯に、商業施設へいけるバスの便を増やす。

Whom：

- 平日の車が使えない家族や、学校帰りの学生

サポートとその評価

サポートの視点

- 抽象的な思考から具体的なアプローチへと段階的にサポートを実施
- 教えるのではなく、共に考える姿勢を意識し、高校生が自信を失わないよう、声掛けを実施

サポートの結果、高校生は自身の考えをアウトプットし、データを基に課題を考えることができました。



取り組んだテーマ「バス運賃が高い」

中学生チーム

真の課題：バスの利用率が下がったので、バス代が高くなった。

最初の課題

- バス運賃が高い

データを収集して見えてきたこと

- 県内と県外を比較した時、県内の方がバス代が高いことが分かった。
- 住民より、観光客の方が利用率が高く、住民の中では、通学で使う人が多い。
- 利用率が低くなっている。

参照したデータ

- 沖縄市
 - 沖縄市HP「沖縄市循環バス」
- その他
 - 沖縄県「公共交通の通勤コストと定期率」
 - 内閣府「公共交通の利用状況」

アイデア：バスに乗ったら商品券がもらえる

Why：

- 買い物でバスを利用する人が少ないから

What：

- 定期券更新の時に商品券をもらえる。

Who：

- 商品券を出してくれるスーパー
- バス会社

Whom：

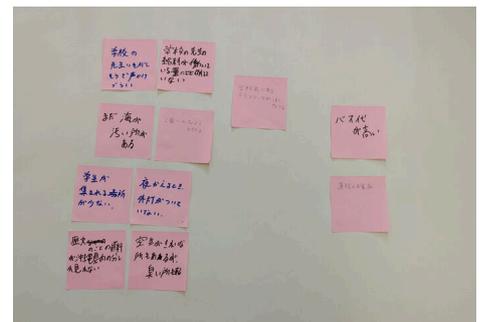
- お店を利用する人

サポートとその評価

サポートの視点

- 身近な問題や気になることを挙げてもらうようサポートを実施
- 必要なデータについて、アドバイスや一緒に探すサポートを行った

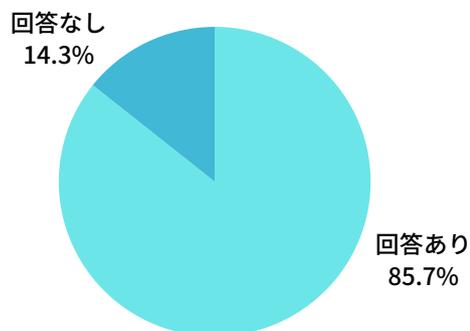
サポートの結果、中学生ならではの視点で課題を挙げる事ができたが、必要なデータを見つけることが難しく、学年に応じてデータを見つけるサポートの工夫を行う必要があると思われます。



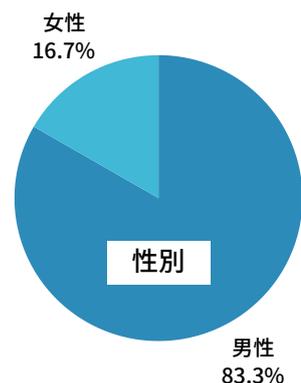
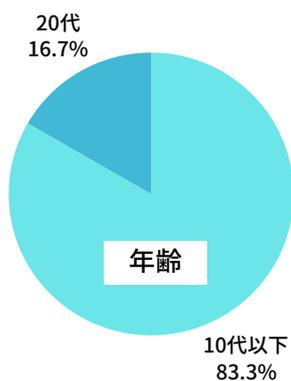
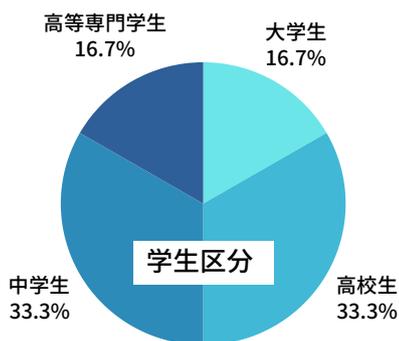
学生向けアイデアソン アンケート結果

アンケート回収率

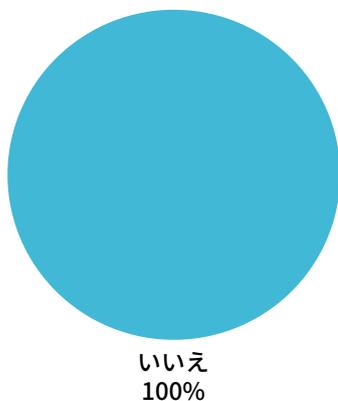
参加者：7名
回答者：6名
回収率：85.7%
回収方法：フォーム、紙



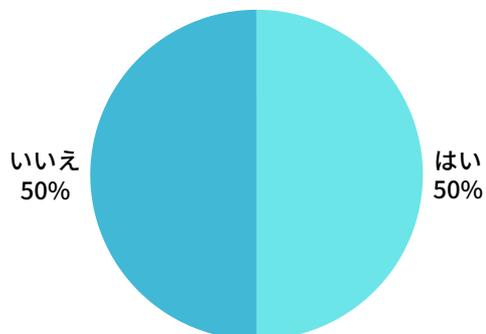
参加者属性について



① 沖縄市のオープンデータ／ダッシュボードをご存じでしたか？

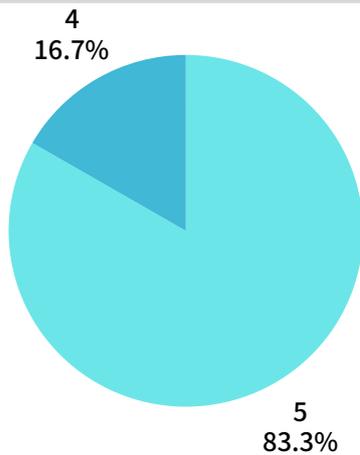


② オープンデータ／ダッシュボードという言葉をご存じでしたか？

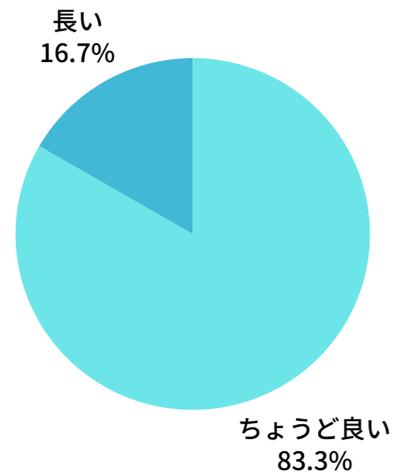


3 講師の話し方はわかりやすかったですか。

わかりやすかった 5 1 分かりづかった

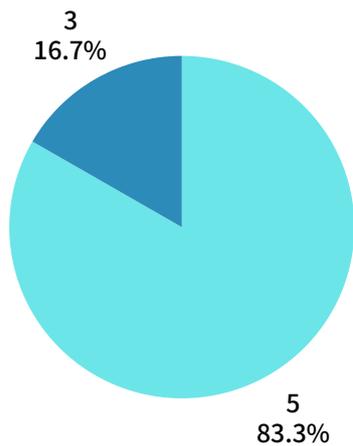


4 講座の進行は適切でしたか？



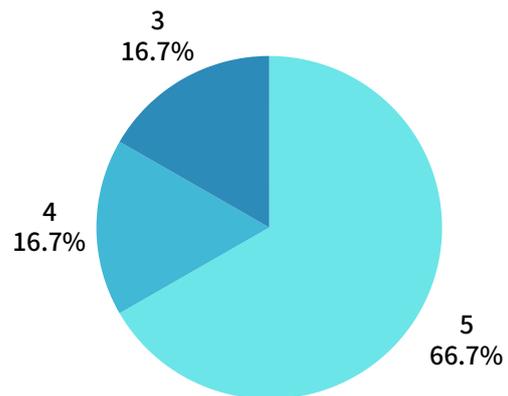
5 アイデアソンの満足度を教えてください。

満足 5 1 不満



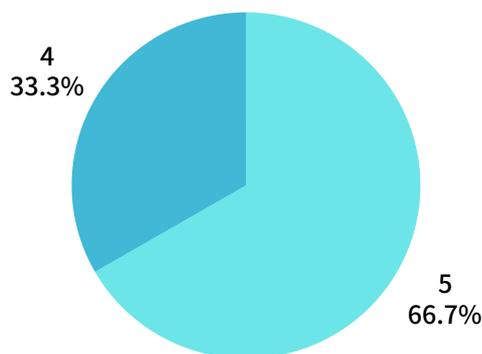
6 講座で提供された資料は、学習のサポートにどれだけ効果的でしたか？

効果的でない 5 1 効果的



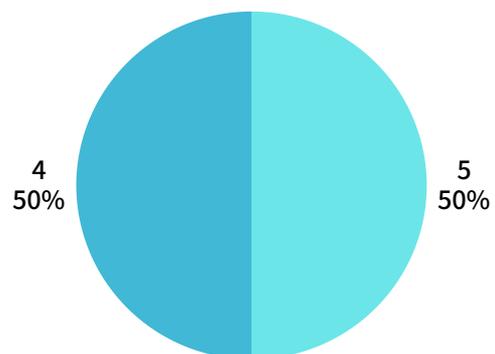
7 オープンデータやデータについて理解できましたか。

理解できた 5 1 理解できなかった



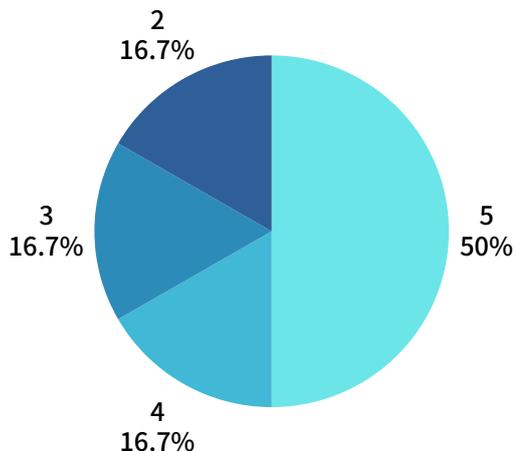
8 アイデアソンでダッシュボードを活用できましたか？

活用できた 5 1 活用できなかった



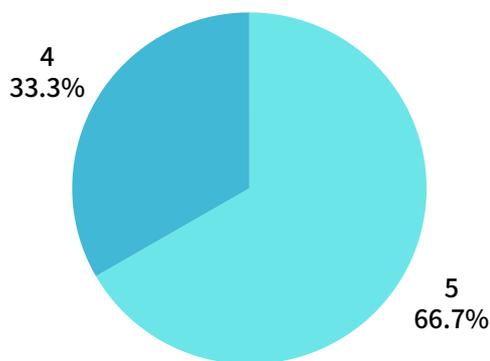
9 ダッシュボードを学業や日常生活、ご自身の活動で生かせそうと感じましたか？

感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



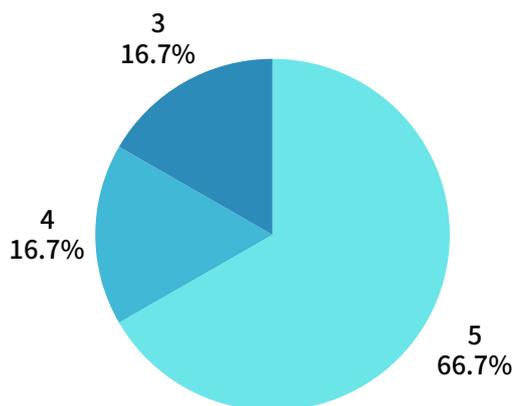
10 地域の課題を考える時、ダッシュボードを用いて情報を収集したいと感じましたか？

感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



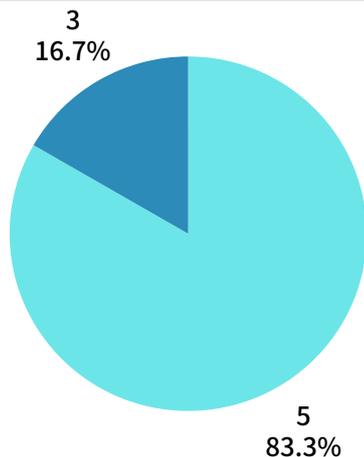
11 ダッシュボードから地域課題を発見できると感じましたか？

感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



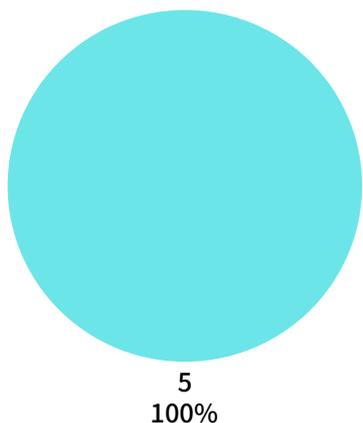
12 データから課題を発見する技術・手法を理解できましたか？

理解できた 5 4 3 2 1 理解できなかった

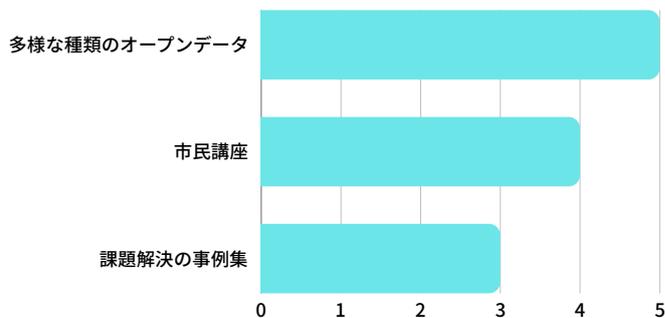


13 データを活用して、課題発見・課題解決をすることが重要と感じましたか？

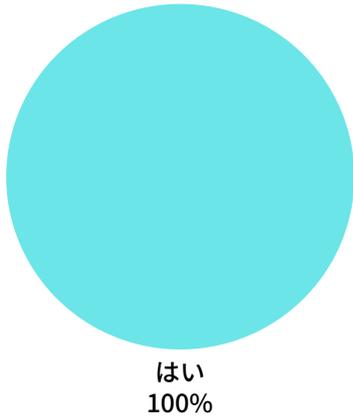
感じた 5 4 3 2 1 感じなかった



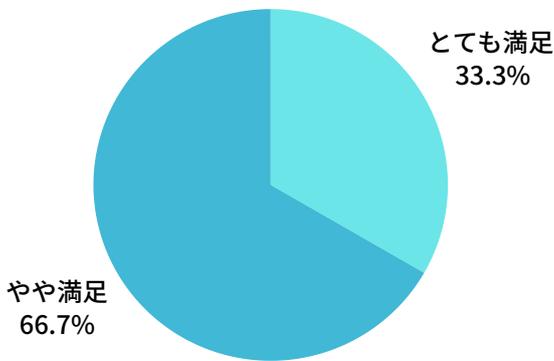
14 今後、データを活用した課題解決を広めるためには何が必要になると思いますか？



15 講座を受ける前と比べて、オープンデータやデータに対する意識が変わりましたか？



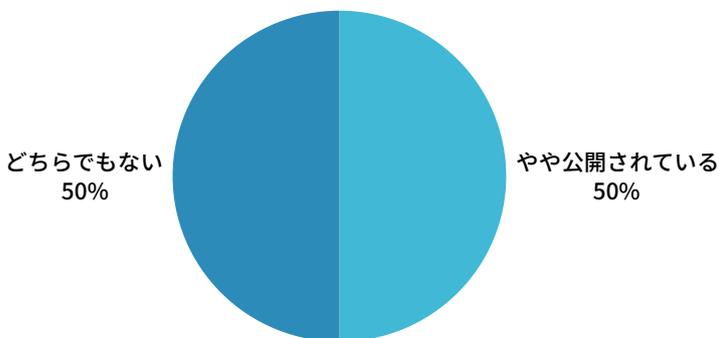
17 沖縄市ダッシュボードの満足度をお教えてください。



記述回答

- このイベントで初めて知ったけれど、数字ばかりのデータよりも凄く見やすく良かったです。（「やや満足」を回答）

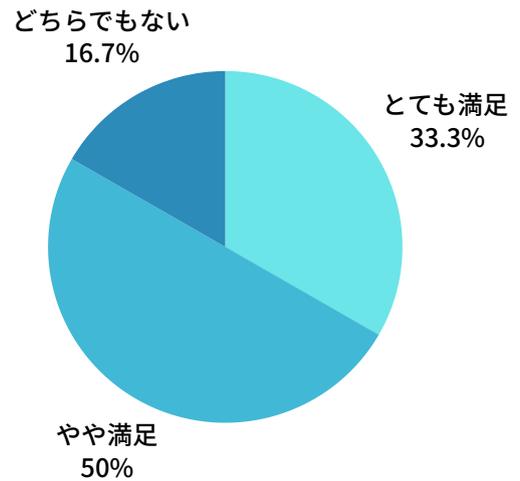
19 必要なダッシュボードが公開されていたか？



記述回答

- ない時もある時もあったから（「どちらでもない」を回答）

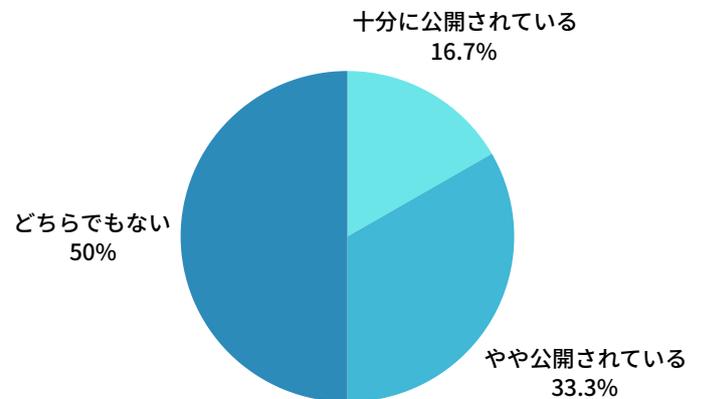
16 沖縄市オープンデータの満足度をお教えてください。



記述回答

- 自分が興味があったけど、なかなか挑戦する事が出来なかった分野に楽しんで関わることが出来たので凄く良かったです。（「とても満足」を回答）
- 載って欲しいデータもあればない時もあったから（「どちらでもない」を回答）

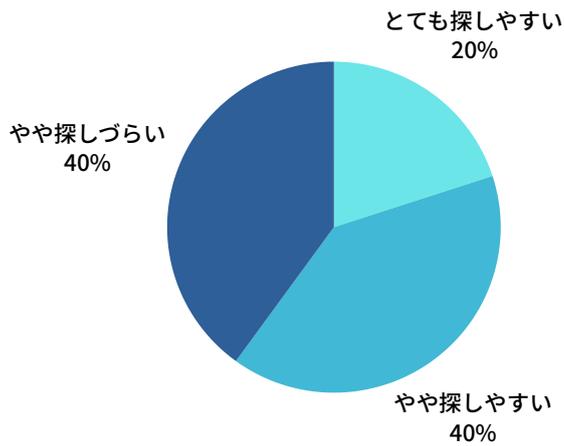
18 必要なオープンデータが公開されていたか？



記述回答

- ない時もある時もあったから（「どちらでもない」を回答）

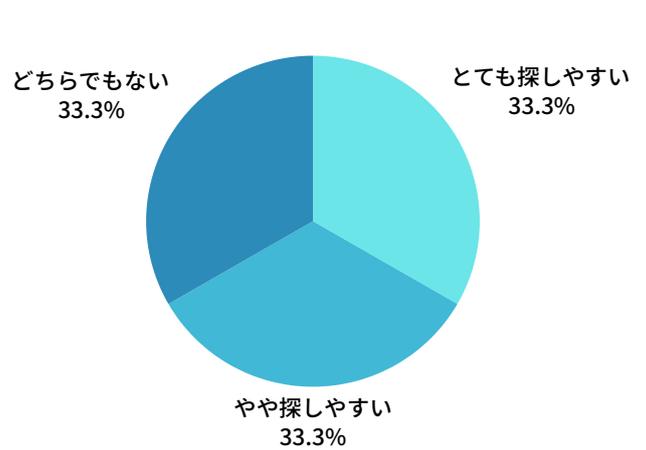
20 必要なオープンデータをすぐに見つけることができましたか？



記述回答

- 細かく調べないと出ないから（「やや探しづらい」を回答）

21 必要なダッシュボードをすぐに見つけることができましたか？



記述回答

- 細かく調べないと出ないから（「どちらでもない」を回答）

22 感想・質問、その他気づいたことをお書きください。

- 学校でもやってみたいと思った。
- オープンデータに対して知識が深まった。オープンデータは、今後の情報収集に有効だと感じたので、より深く勉強したい。
- 今回このイベントに参加して、新しい分野の事を沢山知ることが出来て凄く楽しかったです。機会があればもっとこういうイベントに参加したいです。

アンケート結果から見えてきたこと

「質問1:オープンデータ／ダッシュボードという言葉をご存じでしたか？」という質問に対して、参加者の5割が知っていると回答したものの、「質問2:沖縄市のオープンデータ／ダッシュボードをご存じでしたか？」では、沖縄市のオープンデータ/ダッシュボードは全員が知らないと回答しており、学生の間での認知度が低いことが分かりました。

「質問5:アイデアソンの満足度を教えてください。」では、8割が「満足」と回答し、「質問6:講座で提供された資料は、学習のサポートにどれだけ効果的でしたか？」でも8割の参加者が「効果的であった」と評価していました。また、「質問3:講師の話し方はわかりやすかったですか。」の質問へも全員が「わかりやすかった」と回答しました。これらの結果から、学生に合わせたオープンデータアイデアソンを開催することができたと考えられます。さらに、「質問7:オープンデータやデータについて理解できましたか。」では、全員が理解できたと回答しており、講座の内容や提供した資料が学習効果を高める上で有効であったことが確認されました。

このことから、学生向けに伝え方を工夫し、適切なサポートを行うことで、オープンデータやデータの理解を深めることができることが分かりました。

「質問8:アイデアソンでダッシュボードを活用できましたか？」では、全員が活用できたと回答していた一方で、「質問20:必要なオープンデータをすぐに見つけることができましたか？」では、「やや探しづらい」との回答が4割あり、「質問21:必要なダッシュボードをすぐに見つけることができましたか？」では、「どちらでもない」との回答が3割あり、データを探すことの難しさがあると考えられます。そのため、学生向けにアイデアソンを開催し、データ活用に興味を持ってもらう必要があると思われま

オープンデータやダッシュボードに、テーマに合ったデータが掲載されておらず、必要な情報を探すのに苦労したという意見もあり、オープンデータやダッシュボードの種類が不足していることが伺えました。

以上の結果から、多様なオープンデータを公開していくとともに、沖縄市を担う学生が、オープンデータやその活用について学ぶ機会は重要であり、今後もアイデアソンのような取り組みを続ける必要があると思われま

また、今回のアイデアソンでは、沖縄市のオープンデータやダッシュボード以外にも様々なデータを用いて検討を行いました。課題を考えるために活用したデータを参考に、今後、沖縄市にて公開するオープンデータの選定の参考にする必要があると考えられます。

沖縄市オープンデータアイデアソン 課題提案数

提案された課題解決案数

一般向け
アイデアソン **6 /件**

- 子育て世帯が暮らしやすい「桃原の地域に楽しい児童館を！」
- 沖縄市のまちの変化「新規事業をドライブする」
- 医療福祉「病院の待ち時間が長く、病院に行きづらい人のために、予約システムを整備する」
- 観光「独自観光ルートのシェア（沖縄市への滞在をのばして、お金を落とす）」
- 商店街「若い人が過ごしやすい空間をつくる」
- 空き家「使える空き家は有効活用し、使えない空き家は解体する。（※住めるが家主の都合で空き家状態になっているものが「使える空き家」、住める状態にないものが「使えない空き家」）」

学生向け
アイデアソン **3 /件**

- 中央市街の高齢化「中央市街にスポーツ大学、その周りにスポーツ系の企業」
- 大型商業施設が少ない「まちつなぎプロジェクト」
- バス運賃が高い「バスに乗ったら商品券がもらえる」

沖縄市オープンデータ/ダッシュボード 満足度と考察

ダッシュボードの満足度

一般向け、学生向けそれぞれのアイデアソンにて、ダッシュボードの満足度について、5つの質問より、多角的に評価いたしました。5段階評価で「満足」、「やや満足」と回答した割合を以下にまとめています。

一般向け、学生向けのどちらもほとんどが6割以上の方が、満足していると回答している。一番低い割合でも、4割以上の結果であった。

5段階評価で「5」、「4」と回答した割合

質問内容	一般向け	学生向け
ダッシュボードの満足度を教えてください。	69.2%	100%
アイデアソンでダッシュボードを活用できましたか。	46.2%	100%
ダッシュボードを仕事や日常生活、活動（学業や日常生活、ご自身の活動）で活かそうと感じましたか。	61.5%	66.7%
ダッシュボードから地域課題を発見できると感じましたか。	61.5%	83.3%
地域の課題を考える時、ダッシュボードを用いて情報を収集したいと感じましたか。	76.9%	100%

ダッシュボードの満足度から見えてきたこと

5つの質問のうち4つで満足度が6割以上となり、全体的に沖縄市ダッシュボードに対する参加者の満足度は高く、多くの方が情報収集や地域課題の発見に活用できると感じていました。

「地域の課題を考える時、ダッシュボードを用いて情報を収集したいと感じましたか？」に対し一般向けでは7割の方が、学生向けでは全員が「感じた」と答えていました。「ダッシュボードから地域課題を発見できると感じましたか？」に対しては一般向けでは6割の方が、学生向けでは8割が「感じた」と回答しました。そのため、沖縄市のダッシュボードは、課題を考える際に活用したいと思わせるような内容や作りになっていると考えられます。

「ダッシュボードを仕事や日常生活、活動（学業や日常生活、ご自身の活動）で活かそうと感じましたか。」の質問では、一般向けと学生向けどちらも6割以上が、「感じた」と回答しており、「地域の課題を考える時、ダッシュボードを用いて情報を収集したいと感じましたか。」一般向けと学生向けどちらも7割以上が、「感じた」と回答しており、今後様々な場面で沖縄市のダッシュボードが活用されることが期待されます。

また、「アイデアソンでダッシュボードを活用できましたか。」では、一般向けでは約4割しか「活用できた」と回答した方がおらず、5つの質問の中で、一番評価が低くなっていました。これは、アイデアソンにおいてデータを活用することが難しかったことを示していると考えられます。学生向けでは各チームに1人ずつサポーターを配置したこともあり、全員が「活用できた」との回答であったが、一般向けではサポーターが各チームを巡回する形式だったため、今後はデータの活用を促すためにも、各チームに1人ずつサポーターを配置することが効果的であると思われます。

本講座にて、実際にオープンデータやダッシュボードを活用したことによって、市民からの満足度を聞くことができました。総合的に市民からの満足度は高くダッシュボードを活用できるとの意見が集まりました。そのため、引き続き沖縄市では様々な場面で活用ができるよう、多種多様な種類のデータを公開していくことが必要であると思われます。

沖縄市オープンデータアイデアソン 来年度に向けたフィードバック

アイデアソンを通じて、より多様なオープンデータの公開が求められていることが明らかになりました。多様なデータが公開されることで、テーマに合ったデータが探しやすくなり、アイデアソンにて課題発見などに活用されると思われま

す。ダッシュボードはデータを図や表で見やすく整理されているものの、初めて使用する方によってはデータを見つけることが難しく、事前に操作方法を学ぶことで、さらに効率的にデータを探せるようになると考えられます。

また、今回は沖縄市以外のデータも活用したため、今後は課題を考える際にどのようなデータが必要とされるのか、実際に利用されたデータを分析することが重要です。その結果をもとに、公開可能なデータを検討し、さらなるデータの充実を図ることが期待されます。

今後も多様なデータの充実と、その活用方法を学ぶ市民講座を継続することで、沖縄市におけるデータ活用が促進され、地域課題の解決につながることを期待されます。



実施報告書

沖縄市オープンデータアイデアソン2024 データを活用した地域課題解決